

# 工藤 大成（くどう・たいせい）

## 1、プロフィール

清廉で志の高い教育者であり、第二期の「明星」やその後継の「冬柏」で活躍をした歌人。

<生没>

1868(明治元)年7月21日 ~ 1942(昭和17)年1月10日

<代表作>

歌集『楓村集』

遺歌集『続楓村集』

<青森との関わり>

北津軽郡板屋野木村(現板柳町)土井236番地に生まれ、生涯を送る。

## 2、作家解説

明治元年、工藤九左衛門とふでの三男として生まれた。幼名辰五郎、楓村とも号した。同16年に板柳小学校卒業後、家業(農業・副業菜種油製造販売業)に従事した。19年に父が病死し、21年から授業生となって母校の教壇に立ったが、向学心をおさえ難く上京して体育と簿記の教習所を卒業した。その間にも評論家志賀重昂の門をたたくなど、多方面にわたる独学に精を出している。しかし、それまで支援してくれた長兄が急死したので帰郷して、再び教壇に立った。後に板柳小学校長になるが、就学率向上のために努力するなど、謹厳実直な教育者であったという。

大成が歌の道に入ったのは明治22年のことだが、旧派の歌人長利仲聴に指導を受け「東奥日報」などに作品を発表した。やがて後輩安田秀次郎らとの交遊から名古屋の粟田広治に師事し、板柳に時習吟社を結成して回覧雑誌を発行した。また、大成は秀次郎や松山鉄三郎ら同村の富裕な文学青年らと力を合わせ、

大和田建樹、尾崎行雄他の中央文壇人を板柳に招き、講演会を開催するなどの面でも力をつくした。

大正 14 年に来板した与謝野寛・晶子夫妻との縁から「明星」に出詠。同誌を継承した「冬柏」では同人として活躍し、昭和8年に冬柏発行所から歌集『楓村集』が出版された。昭和 17 年に病没したが、同 63 年には孫によって遺歌集『続楓村集』が刊行された。

平明でやや鋭さには欠けるが、誠実で朴直な人柄のにじむ、好感のもてる歌が多い。

### 3、資料紹介

#### ○『楓村集』

図書

1933(昭和8)年7月5日

194mm×130mm

与謝野寛との出会いから、そのすすめによって選んで一冊とし、冬柏社から出版された歌集。巻頭に寛の序文と晶子の序歌2首、巻末に著者の後書がある。明治 21 年から昭和8年までの 786 首には、愛をもって貫こうとした大成の人間性がうかがえる。